

八学短大生 あおば食堂でも「子ども食堂」

ぬくもりを感じて

八戸

八戸学院短大ライフデザイン学科で「食育」を専門とする佐藤千恵子教授とゼミの学生3人が取り組む、八戸市で初めての「子ども食堂」。同市柏崎2丁目の「あおば食堂」でも、月ごとのイベントや、食べ物を一緒に手作りするを通し、参加者同士の交流を深めようと、3回開かれる。同店での企画には「季節や、誰かと作るぬくもりを感じてほしい」というゼミ生らの思いが込められている。(佐藤雄)

小中学生らケーキ作り

子ども食堂は、子どもの貧困や孤食防止の対策の一つとして、全国で注目されている。多くは寄付された食材を用い、ボランティアで調理した上で、低価格、もしくは無料

で食事を提供する。八戸市では先月の「きたむら食堂」での開催を皮切りに、両店で2月まで計7回行われる予定だ。あおば食堂での初回には、市内の小中学生や父子家庭な

ど23人が集まった。スポンジケーキに生クリームや色とりどりのフルーツをデコレーション。クリスマス気分を味わい、会場には笑顔があふれた。家族で訪れた小中野小5年の熊野成龍君(11)は「みんなと一緒に、作るのも食べるのも、すごく楽しい」と満面の笑み。父の寿彦さん(37)は「いろいろな地区の子同士が仲良くなれる場にもなると感じた。続けてほしい」と語った。今後、あおば食堂では1月7日と2月4日に開かれる。時間はいずれも正午〜午後2時。1月7日は正月に合わせて手巻きずし作りや福笑い、2月4日は豆まきなどを楽しむ予定。両日とも20食限定で、前日までの申し込みが必要となる。

また、同市の「きたむら食堂」でも1月17日、2月21日に開かれる。

予約、問い合わせは八学短大の佐藤教授へ電話0178(30)2109へ。